

特別セッション

「人文科学とデータベースの教育に関わる現状と課題」ラウンドテーブル

このシンポジウムを企画・支援する人文系データベース協議会は、人文科学におけるデータベースの構築と応用を中心とした研究分野における学術的交流を目的とした大学間の連絡協議会である。この協議会を中心とするシンポジウムも回数を重ね、多くの成果を得るにいたった。しかしながら、いままで、この協議会で大学のもうひとつの機能である教育を正面からとりあげてくることは、多くなかったのではないだろうか。

無論、それは、人文系データベース協議会が、この問題を捨象してきたわけではない。人文系データベース協議会が立ち上がった当初は、この領域そのものが黎明期であり、まとまった教育などを行える環境が整わなかったためだと理解している。

その後、この「人文科学とデータベース・人文科学とコンピュータ」の領域が成熟してくるにつれ、この領域への理解も進み、多くの研究者を輩出し、すばらしい成果が多く生まれるようになってきた。その成果を踏まえ、日本全国、とりわけ、この人文系データベース協議会の「中心」である関西の多くの大学で、研究組織に加えて教育組織が立ち上がるようになってきた。それは、長く協議会に関わってきた人々の尽力の一つの形である。

教育組織が多く立ち上がり、研究者の「再生産」を行える体制が整いつつあるということは、ひとつの領域がひとつの「学問分野」へと成熟していく一過程であるといえるだろう。その教育組織の体制が整い、再生産への道筋が整いつつある一方で、課題が見えてくる時期にもなってきた。

そこで、このラウンドテーブルでは、それぞれの大学の特色・成果の報告と課題をあぶりだすことを目指す。とりわけ、この領域の教育に関わる共通の悩みとそれを解決する／してきた方法などを忌憚なく討論し、相互に協力し合う体制を見つけることで、より新しいステップに進めるのではないだろうか。文理のバランスをどのように考えるか、キャリアパスの課題、人材の確保、最終的にはどのような人材を輩出することを目指すのか、など多くの課題について議論できれば幸いである。

(文責・後藤 真)

1. 花園大学 情報歴史学 【師 茂樹】

授業科目

- ・情報歴史学研究Ⅰ・Ⅱ (2回生以上、それぞれ前後期2単位)
- ・情報歴史学概論Ⅰ・Ⅱ (全学年、それぞれ前後期2単位)
- ・情報歴史学実習Ⅰ・Ⅱ (2回生以上、それぞれ前後期2単位)
- ・文化遺産学研究入門演習 (2回生、2単位。前期と後期で学科内の異なるコースを履修)
- ・文化遺産学演習(3回生、4単位)など。

2009年3月に刊行した後藤真・田中正流・師茂樹『情報歴史学入門』(金壽堂出版)は、2002年に始まった情報歴史学コースにおける教育の実践をまとめたものであるが、ここでは大きく分けて以下の2つの能力の養成を目指している。

1. デジタル化された歴史情報に対するリテラシー能力
2. 学生が自ら問題を見出し、卒業制作と卒業論文によって解決する能力

1については、既存の歴史学のためのデータベースや文化遺産のデジタルアーカイブなどを批判的に「読む」(評価する)とともに、それがどのような目的・方法で作られたものなのかを読み解く訓練を行う。また、様々なデジタル化の技法を学びつつ、それらの一つを用いて実際に対象(歴史的な知識や文化遺産)をデジタル化する実習を行っている。

2については、他のディシプリンにおける卒業論文指導などと大きな差はないと思われるが、情報歴史学では特に、コンピュータを使ってどのような貢献ができるのか(自己満足にならないか)という点と、

「対象」と「方法」を区別して先行研究調査などを行う点を指導している。また、成果物の公開などにあたっては、対象となる人々に対してそれがどのような影響を持つのか等、デジタル化や公開という活動がもつ社会的な影響力についても考えるよう指導している。

【参考文献】

- ・師茂樹「情報歴史学の課題 花園大学・情報歴史学コースのための主観的航海図」(『漢字文献情報処理研究』第3号、2002年)
- ・佐藤誠・田中正流「花園大学「情報歴史学コース」の現状と課題」(『漢字文献情報処理研究』第4号、2003年)
- ・師茂樹「情報歴史学のこれから 花園大学・情報歴史学コースの4年間をふり返って」(『漢字文献情報処理研究』第7号、2006年)
- ・師茂樹「情報歴史学の教育に挑む」(『歴博』第140号、2007年)

氏名：師茂樹

所属：花園大学文学部

主要業績：

- ・師茂樹「GraphText 紙テープに呪縛されないテキストデータの試み」(『漢字文献情報処理研究』第10号、2009年10月)
- ・師茂樹「携帯電話の絵文字における semantics の問題」(『東洋学へのコンピュータ利用 第21回研究セミナー』、2010年3月)
- ・師茂樹「「公共の記憶」^{メモリア}としての電子書籍」(『ユリイカ』2010年8月号、青土社、2010年7月)

2. 同志社大学 文化情報学 【阪田真己子】

氏名：阪田真己子

所属：同志社大学文化情報学部

主要業績

- ・「学びと身体空間」,『「学び」の認知科学事典』(佐伯胖監修・渡部信一編,大修館書店,共著(2009))
- ・Motion Feature Quantification of Different Roles in Nihon-Buyo Dance,"Advances in Human-Robot Interaction", Edited by Vladimir A. Kulyukin,INTECH,(2010)
- ・Comparison of Differentiation of Basic Dance Motions of Nihon-buyo Using Motion Capture,"Proceedings of the International Conference on Humanized Systems",(2010)

3. 大谷大学 人文情報学 【柴田みゆき】

授業科目

- ・情報社会の権利と法律(現在担当)
- ・情報産業論(過去担当)
- ・マルチメディア論(過去担当)
- ・文化財映像化演習
- ・人文学テキスト処理論
- ・プログラミング演習
- ・データベース演習

1年次に対しては過去、Windows OSを中心としたPC活用能力を学ぶ週2回の実習「専門の技法」を担当した。2年次は現在、「人文情報学演習II」を担当している。学生のコミュニケーション能力向上

のため、前期はディベート能力、後期はプレゼンテーション能力の強化に特に力を入れている。これらの経験から、総合的な情報活用能力を客観的に判断可能な試験を2年生に課す提案を行い、2年前からRasti試験が導入されることとなった。この試験の成績をゼミ選択に反映させることで学生の勉強と受験の動機づけを行い、同時に学生に外部評価を自覚させることで向後の勉強の動機づけを行っている。

3・4年次は、学科開設以来継続してゼミを担当している。コンテンツ（動画）製作とその法的問題点がテーマである。大きな問題点は、参加学生の学力により、毎年、技術を教えるか、対象の内容を深めるかのどちらかに偏りがちになることである。卒論は映像、オンラインゲーム、コミュニケーション、法律に関わるテーマが多い。

氏名：柴田 みゆき

所属：大谷大学文学部

主要業績：

・柴田みゆき, "資料空間から任意の関心領域を柔軟に抽出・提出する新たな方法論の研究", 大谷学報 第88巻第1号, 大谷学会, 2008-12-10.

・Seiji Sugiyama, Atsushi Ikuta, Miyuki Shibata and Tohru Matsuura, "An Event Oriented Data Management Method for Displaying Genealogy: Widespread Hands to InTErconnect BASic Elements(WHITEBasE), The 9th International Conference on Computer Information Systems and Industrial Management Applications(CISIM), 2010-10-10.

・柴田みゆき, et. al., "北京版チベット大蔵経の高再現性デジタル画像化：写真撮影過程", 情報処理学会研究報告, 人文科学とコンピュータ研究会報告 98(97), 73-80, 1998-10-23.

・京都ソフトウェアリサーチ メディアデザイン, "GNU Emacs 入門", Login:UNIX シリーズ, オーム社, 1994-3.

・柴田みゆき, 高橋真共編, "情報リテラシーの基礎【2010年版】(II)", 2010-9.

4. 立命館大学 デジタル人文学 【河角龍典】

授業科目

・文学部副専攻イノベーションプログラム「デジタル人文学」コース（2010年新規開講）

・「コンピュータグラフィックス基礎演習Ⅰ（2次元CG）」（2回生・前期・2単位）

・「コンピュータグラフィックス基礎演習Ⅱ（2次元CG）」（2回生・後期・2単位）

・「WEB技術基礎演習」（2回生・後期・2単位）

・「テキスト情報処理演習」（3回生・前期・2単位）

・「デジタルアーカイブ演習」（3回生・後期・2単位）

・「空間情報処理演習（GIS）」（3回生・後期・2単位）

・「コンピュータグラフィックス演習Ⅰ（3次元CG）」（3回生・前期・2単位）

・「コンピュータグラフィックス演習Ⅱ（映像）」（3回生・後期・2単位）

※2回生配当科目の3科目6・単位と、3回生配当科目の2科目4単位以上を選択し、計5科目10単位以上の単位取得が修了要件となる。

立命館大学文学部では、2010年から副専攻イノベーションプログラムとして、「デジタル人文学」コースを開講した（定員30名）。このコースは、文学部で教養科目として開設される情報系科目30科目とは別に提供される科目である。「デジタル人文学」コースでは、Bに示したとおり合計8科目が開講され、人文科学の分野に必要な情報技術を実践的にかつ系統的に履修できる。各科目の担当教員は、現在のところ人文科学出身の教員で構成されている。

1回生時の12月までに志望理由書を執筆し、受講登録にエントリーする必要があるため、専攻分野とコース提供科目との関係の理解が容易になるように「テキスト・画像情報処理系」、「空間情報処理系」、

「ビジュアル情報処理系」3つの履修モデルを提案している。しかし、2回生時には、自分自身が行う研究に情報技術がどのように活かされるのかということが、明確にならないまま履修している学生が多いのが現状である。

氏名：河角龍典

所属：立命館大学文学部

主要業績：

- ・河角龍典（単著）「バーチャル長岡京・平安京 3D マップ」、(国立歴史民俗博物館編『桓武と激動の長岡京時代』, 山川出版社, 2009年, 所収)
- ・河角龍典（単著）「平安時代のバーチャル京都」、(矢野桂司・中谷友樹・磯田弦編『バーチャル京都』, ナカニシヤ出版, 2007年, 所収)
- ・河角龍典・原澤亮太・吉越昭久（共著）「中世京都の地形環境変化」、(高橋康夫編『中世都市研究 12 中世のなかの「京都」』新人物往来社, 2006年, 所収)